



ALBA 新聞～希望の夜明け～

No.42 2023/11

段々と寒くなり暖かい飲み物が飲みたくなる季節です、ココアやカフェオレを飲んで、ほっと一息つくのもいいですね。

ちなみに私はカフェオレと抹茶の甘いラテが好きです♥

(K・A)

ALBA 新聞はアルバの利用者が作成しています。

11月1日犬の日について

まず初めに犬の日の由来といつ、どのように誕生したのかをご説明させていただきます。

犬の日は犬の鳴き声の「ワンワンワン」と「111」の組み合わせから、11月1日になったそうです。

ちなみに同じ年の2月22日を「猫の日」に制定しました。その由来も猫の鳴き声の「にゃんにゃんにゃん」からきました。

私は「動物の鳴き声で〇〇の日って作れるのでは？」と思いました。私以外にもそう思った人はいるかもしれませんね。

実は11月が犬の月「世界犬の日」になっています。

いつできたかというと2004年に動物愛護家のコリーンページという方によって制定されました。それは私たちの身近にいて、笑顔と癒しをくれる犬や目が見えない人を助けてくれる盲導犬や事件の際に協力してくれる警察犬や私たちの暮らしを助けてくれる救助犬などに感謝をする日です。

犬種による差別をなくして、新しい家族を探す犬たちが幸せになるように願う日でもあります。私は個人的に差別をなくし、新しい家族を探している犬の幸せになるように願うことが個人的に大切だと思いました。

犬の日については以上ですが、ここからは私の話をさせていただきます。

私は小学4年生の時から犬を飼っており、現在も元気に暮らしています。

辛い時いつも側に来てくれたり慰めてくれてアニマルセラピーでストレスも軽減してくれます。なので日ごろの感謝を込めて11月に愛犬に接したいと思いました。(T・Y)(O・M)



各SNSでプログラムの様子を見ることが出来ます。
是非チェックしてみてください。12月号もお楽しみに！



七五三の歴史

七五三とは、7歳、5歳、3歳の子どもの成長を祝う日本の伝統的な行事のことです。神社・お寺などで「七五三詣」を行い、成長の感謝をし健康祈願を行います。

七五三の由来

七五三の由来は諸説ありますが、平安時代の貴族の宮中行事が起源になっています。現代と比較して医療技術が未発達なので、虫歯や風邪などでも命を落としてしまうことが多かったようです。そのため3歳、5歳、7歳になったときに、無事その年まで成長できたという感謝を込め、今後も長生きできるようにと祈願してお祝い事としていたのが七五三の起源といわれています。

七五三を11月15日に祝うようになった由来

- ・天和元（1681）年11月15日に江戸幕府5代将軍の徳川綱吉が長男・徳川徳松の健康を祈願した儀式が行われたため、11月15日に祝うようになったという説があります。
- ・11月15日が鬼が歩かないとされる二十七宿の鬼宿日（きしゅくにち）にあたり、婚礼以外のお祝いには吉日とされていたからという説もあります。
- ・旧暦の11月は収穫を終えてその実りを神に感謝する月であり、その月の満月の日である15日に、氏神への収穫の感謝を兼ねて子供の成長を感謝し、加護を祈るようになったという説もあります。

七五三は以下の3つの儀式が元になりました。

3歳「髪置の儀」

平安時代の頃は男女ともに生後7日目に頭髪を剃り、3歳頃までは丸坊主で育てるという風習がありました。これは、胎内にあったものは不浄であるという考えによるものだそうです。3歳になると、白髪になるまで長生きするようにとの願いを込めて、真綿でできた白い綿帽子を頭に置く髪置の儀式を行ってから、髪を伸ばし始めます。

5歳「袴着の儀」

袴着は平安時代に誕生した初めて袴を着る儀式で、男女ともに行われていました。江戸時代になると武家の間にも広まり、次第に5歳男児だけの行事として定着します。

7歳「帯解（おびとき）の儀」

室町時代に貴族の間で始まり、当初は男女とも9歳に行っていたといえます。子供を恵方に向かって立たせて、付け紐で括る乳幼児用の着物ではなく、付け紐のない着物を着せて初めて帯を結ぶというものです。江戸時代中期頃になると、7歳女児だけが行うようになりました。

(K・T)

